

◆経済倶楽部講演会第4258回（9月14日）

# 新しい「南海トラフ地震」の評価と地震への備え

東京大学地震予知研究センター長 平田 直

- \*大地震時には大停電が起こる
- \*今回は6回目の震度7の地震
- \*使われなくなった余震という言葉
- \*東北地方太平洋沖地震の規模は熊本地震の1000倍
- \*東日本を上回る南海トラフの地震被害
- \*重要になってきた事前防災
- \*東海地震に対する高精度の観測体制
- \*地震に対する脆弱性に応じた対策
- \*気象庁は何をどう発表するのか
- \*首都直下地震時にどう対処するか



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日は東大地震研地震予知研究センター長の平田先生においでいただきました。テレビ等で皆様もよくご存じかと思いますが、現在、地震関係のチーフをされておられます。東京大学で地球物理学を専攻され、カリフォルニア大学で研究され、今東大の教授をされておられます。

地震につきましては皆さんもいろいろご心配もあるかと思えます。最近では北海道で最大震度7の地震が起きまして、熊本、高槻、北海道というところで、先ほど伺いましたら日本全国どこでもこういったことは起こり得るということでございます。どこまで予知ができるかというのは今日のお話の中で伺えると思いますが、特にいちばん大きな地震として心配されている南

海トラフを中心に、今後われわれの注意すべき点等についてお話しいただけると思います。それでは平田先生よろしくお願いいたします。（拍手）

## 大地震時には大停電が起こる

**平田** 東京大学地震研究所の平田でございます。皆様こんにちは。

今日は皆様の貴重なお時間をいただきまして地震の話させていただきます。それで、今日の講演のお約束をしたときは南海トラフの地震のお話をするということで準備をしてきたのですけれども、ちょうど1週間と1日前、9月6日未明の3時に北海道で大きな地震がございまして、被害が出ました。今でも地震活動や、被